

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の江東区の状態について【小学校・義務教育学校（前期課程）】

令和5年12月14日
指 導 室

1 調査目的

義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校・義務教育学校
第6学年児童
(3,933人実施)

3 調査方法・内容

- (1)児童に対する調査
①教科に関する調査
(国語、算数)
主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題。
②質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
(2)学校質問紙調査
学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状態に関する調査

4 調査実施日

令和5年4月18日(火)

5 教科に関する調査（国語、算数）の結果の概要

<小学校・義務教育学校（前期課程）>

国語・算数

太字ゴシック (網掛け) : 全国・都ともに上回ったもの
太字ゴシック : 都のみ上回ったもの

・令和5年度

	国語		算数	
	正答率	計算値	正答率	計算値
江東区	72	104.3	70	104.5
東京都	69	100	67	100
全国	67.2	97.4	62.5	93.3

・参考（令和4年度）

	国語		算数		理科	
	正答率	計算値	正答率	計算値	正答率	計算値
江東区	73	105.8	71	106.0	67	103.1
東京都	69	100	67	100	65	100
全国	65.6	95.1	63.2	94.3	63.3	97.4

各教科の調査結果について

【国語】

- 「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題の正答率は、国67.4%、都72.0%に対し、本区74.8%と国、都より高い正答率だった。
- 「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題の正答率は、国26.7%、都28.9%、本区30.4%と全体的に低かった。

【算数】

- 「() を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる」問題の正答率は、国70.3%、都73.4%に対し、本区77.9%と国、都より高い正答率だった。
- 「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題の正答率は、国20.8%、都29.5%、本区32.8%と全体的に低かった。

6 江東区長期計画の指標との関連 () 内は令和4年度の数値

指標名	目標値 令和6年度	令和5年度		
		江東区	東京都	全国
全国学力学習状況調査で都平均を100としたときの区の数値	107	104.4 (105.9)	100	95.4 (94.7)
自分にはよいところがあると思う児童の割合	87%	81.4% (79.7%)	83.6% (80.1%)	83.5% (79.3%)
人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合	96%	94.6% (94.2%)	94.9% (94.2%)	95.9% (95.1%)

7 児童質問紙調査の結果の概要

- 学校生活について
「学校に行くのは楽しいと思う」と回答している児童の割合は、国85.3%、都84.5%、本区83.1%（令和4年度比 国-0.1ポイント、都-0.4ポイント、本区-0.4ポイント）である。前回調査から肯定的な回答が減少している。
- 自己肯定感について
「自分にはよいところがある」と回答している児童の割合は、国83.5%、都83.6%、本区81.4%（令和4年度比 国+4.2ポイント、都+3.5ポイント、本区+1.7ポイント）である。国や都と比較すると低い数値であるが、前回調査と比較すると肯定的な回答が増加している。
- いじめについて
「どんな理由があってもいけないことだ」と回答している児童の割合は、国96.9%、都95.8%、本区94.9%（令和4年度比 国+0.1ポイント、都-0.2ポイント、本区-0.8ポイント）である。前回調査から肯定的な回答が減少している。
- 授業におけるICT機器の活用について
「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」で週3日以上と答えた児童の割合は、国62.4%、都68.7%、本区は70.4%であり、国や都の数字を上回った。

8 こうとう学びスタンダードとの関連 () 内は令和4年度との差

- 家庭学習について①【月～金曜日の間に1日60分以上勉強をする児童の割合】
国57.1% (-2.3ポイント)、都63.6% (-1.7ポイント)、本区69.8% (-0.3ポイント)
- 家庭学習について②【家で、自分で計画を立てて勉強している児童の割合】
国70.7% (-0.4ポイント)、都71.5% (-1.1ポイント)、本区73.7% (-0.2ポイント)
- 読書への親しみについて【月～金曜日の間に1日30分以上読書している児童の割合】
国37.3% (+0.9ポイント)、都42.5% (+1.1ポイント)、本区：44.6% (+1.3ポイント)

1 調査目的

義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年生徒
義務教育学校第9学年生徒
(2,637人実施)

3 調査方法・内容

- (1) 生徒に対する調査
- ① 教科に関する調査 (国語、数学、英語)
主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題。
 - ② 質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- (2) 学校質問紙調査
学校における指導方法に関する取組や人的・物的教育条件の整備の状況に関する調査

4 調査実施日

令和5年4月18日(火)

5 教科に関する調査(国語、数学、英語)の結果の概要

＜中学校・義務教育学校（後期課程）＞

国語・数学・英語

太字ゴシック (網掛け) : 全国・都ともに上回ったもの
太字ゴシック : 全国または都のみ上回ったもの

・令和5年度

	国語		数学		英語	
	正答率	計算値	正答率	計算値	正答率	計算値
江東区	73	101.4	56	103.6	53	101.9
東京都	72	100	54	100	52	100
全国	69.8	97.0	51.0	94.4	45.6	87.7

・参考(令和4年度結果)

	国語		数学		理科	
	正答率	計算値	正答率	計算値	正答率	計算値
江東区	71	101.4	54	100.0	50	98.0
東京都	70	100	54	100	51	100
全国	69.0	98.6	51.4	95.2	49.3	96.7

各教科の調査結果について

【国語】

- 「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる」問題の正答率は、国63.0%、都67.4%に対し、区69.1%と国、都より高い正答率だった。
- 「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」問題の正答率は、国50.0%、都54.1%に対し、区53.8%と都よりも低い正答率だった。

【数学】

- 「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる」問題の正答率は、国58.8%、都63.2%に対し、区65.5%と国、都より高い正答率だった。
- 「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題の正答率は、国33.6%、都36.5%、本区39.6%と全体的に低かった。

【英語】

- 「日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる」問題の正答率は、国61.1%、都70.4%に対し、区73.4%と高い正答率だった。
- 「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる」問題の正答率は、国7.4%、都10.1%に対し、区11.7%と全体的に低かった。

6 江東区長期計画の指標との関連 ()内は令和4年度の数値

指標名	目標値 令和6年度	令和5年度		
		江東区	東京都	全国
全国学力学習状況調査で都平均を100としたときの区の数値	105	102.5 (100.7)	100	95.7 (96.8)
自分にはよいところがあると思う生徒の割合	80%	79.0% (76.4%)	80.1% (78.5%)	80.0% (78.5%)
人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合	93%	93.2% (92.6%)	93.4% (93.5%)	94.6% (95.0%)

7 生徒質問紙調査の結果の概要

○ 学校生活について

「学校に行くのは楽しいと思う」と回答している生徒の割合は、国81.8%、都81.6%、本区82.2%(令和4年度比 国-1.1ポイント、都-0.8ポイント、本区+1.2ポイント)である。国や都と比較すると高い数値であるが、前回調査と比較すると肯定的な回答が増加している。

○ 自己肯定感について

「自分にはよいところがある」と回答している生徒の割合は、国80.0%、都80.1%、本区は79.0%(令和4年度比 国+1.5ポイント、都+1.6ポイント、本区+2.6ポイント)である。国や都と比較すると低い数値であるが、前回調査と比較すると肯定的な回答が増加している。

○ いじめについて

「どんな理由があってもいけないことだ」と回答している生徒の割合は、国95.5%、都94.6%、本区は93.9%(令和4年度比 国-0.9ポイント、都-0.6ポイント、本区-1.3ポイント)である。前回調査から肯定的な回答が減少している。

○ 授業におけるICT機器の活用について

「1、2年のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」で週に3日以上と答えた生徒の割合は、国61.1%、都65.9%、本区は70.8%であり、国や都の数値を上回った。

8 こうとう学びスタンダードとの関連 ()内は令和4年度との差

- 家庭学習について①【月～金曜日の間に1日60分以上勉強をする生徒の割合】
国65.8% (-3.7ポイント)、都71.2% (-2.6ポイント)、本区73.6% (-2.8ポイント)
- 家庭学習について②【家で、自分で計画を立てて勉強している生徒の割合】
国55.0% (-3.5ポイント)、都56.3% (-3.6ポイント)、本区54.5% (-4.0ポイント)
- 読書への親しみについて【月～金曜日の間に1日30分以上読書している生徒の割合】
国28.4% (+1.1ポイント)、都29.1% (+0.5ポイント)、本区28.3% (+0.9ポイント)